



ホペイロという仕事

名古屋グランパス 松浦紀典

え、フィジカルコーチやトレーナーら専門スタッフは年々、充実度を増している。でもホペイロの分野は、世界からかなり遅れている。現在、世界基準と思えるホペイロが

やクラブ、靴磨きなど、

05年に磐田から名古屋に移籍したMF藤田俊哉は当初、試合前に自分専用のドリンクをシャカシヤカと自身でこしらえていた。ドリンク作りやスパイクの手入れを僕がや

ブラジルや欧州のトップクラブには、当然のようにホペイロがいる。クラブ経営が苦しくても、真っ先に経費をかける専門職だ。名古屋では僕一人だが、以前、トヨタカ

差とも言える。

世界基準

プロならいるのが当然

小学生を対象にしたサッカー教室を7月に開いた時、「ホペイロって知ってる？」と尋ねると、会場はシーンとなった。Jリーグは15年目を迎

いるJ1クラブは、名古屋と清水の二つくらい。他のクラブはホペイロの肩書があっても、用具管理などホペイロの一部の仕事を手がける。J1で

自分で手入れするように教えられる。J1でも「スパイクぐらい自分で磨け」というような考えで、ホペイロをあえて置かないクラブもある。

り始めると、藤田は「若い選手を甘やかしてしまわぬ」と不安そうだった。だが今は、試合に集中できてクラブに必要な存在だと言っている。

海外でも子供たちは用具に親しみを持つように教えられる。だが、勝利を目指すプロになると、ホペイロに任せるのが自然な流れだ。



ホペイロという仕事

名古屋グランパス 松浦紀典

まつうら・のりよし 70年12月26日、山梨県富士吉田市生まれ。36歳。山梨県立吉田高校卒業後、大手時計会社の関連会社に4年半勤務。03年10月、家族の反対を押し切ってJ1ヴェルディ川崎(現

プロ意識

試合に選手集中させる

J2東京ヴェルディのホペイロとして契約。03年2月からJ1名古屋のホペイロに。高校ではサッカー部に所属し、社会人時代も山梨県リーグでMFでプレーした。

イクのケアや、ボール、ユニホーム、練習用具の管理が主な仕事だ。僕がこの世界に入ったのは運命だったのかも

れない。91年に日本リーグの試合を見た帰りに、当時読売クラブのホペイロのベゼーハさんが荷物搬入用通路から出てきた。いつかサッカーに関係する仕事をしたいと思っていたから、この職業も、この小柄なブラジル人のことも知っていた。

連絡先を聞き、サラリーマンの傍ら、時間があれば手伝いに通った。正式に契約してまず練習場の選手のロッカーキーの暗証番号を覚えた。

日本人で初めてプロのホペイロになった松浦紀典氏が、この職業にかけ

今でもはつきり覚えている言葉がある。「マツちゃん、日本代表にホペイロがいたらワールドカップ(W杯)に行けたかもしれないよ」

03年10月、W杯米國大会予選で本大会出場を逃した「ドーハの悲劇」の直後、帰国した日本代表の柱谷哲二さんの言葉が試合に集中できる環境作りこそが、ホペイロの

の仕事だと肝に銘じた。サッカートピクに詳しい人は知っていると思うが、「ホペイロ」はポルトガル語で、日本語では「用具係」と訳される。スパ

習場の選手のロッカーキーの暗証番号を覚えた。試合会場にユニホームを忘れていたら即解雇、

ベゼーハさんはスパイクの磨き方やロッカールームの整理方法を工夫し何よりも勝利を目指した。出ないように入社契約にしている。

「選手は手ぶらで来て、手ぶらで帰る」。選手が気持ちよくプレーできる環境も、ヴェルディ川崎の常務に貢献していた。

日本人で初めてプロのホペイロになった松浦紀典氏が、この職業にかけ

ホペイロという
仕事

名古屋グランパス 松浦紀典



ホペイロの仕事で最も力量を問われるのが選手のスパイクのケアだ。名古屋のMF中村直志はインフロントキックが得意で、FKもうまい。

スパイク

「手袋」のような感覚に

ただ、けり足が深く入り込むので、スパイクの表側とソール(裏側)の間に芝生がまはさまって

滑りにくい中敷きに取り換え、薦めてみた。04年8月の浦和戦で、新しいスパイクを履いた中村はミドルシュートなど見事に得点。「あのシュートはスパイクのお

かげ」と喜び、今も履き続けている。スパイクはキックの精度にも直接影響する。だから選手全員がキックの

改良するのだ。スパイクは革製品なので、使用後の手入れも大

手袋の感覚になるように心掛けていた。以前在籍したヴェルディ川崎や名古屋から移籍した選手の何人かは、今でもスパイクを送ってきて手入れを頼んでくる。自分の仕事を認めてもらえるのは、うれしい限りだ。

ホペイロという
仕事

名古屋グランパス 松浦紀典



いつも持ち歩いているジュラルミン製の「ホペイロバッグ」の中に、思いついた品がある。03年にヴェルディ川崎が年間優勝した時に、カズさん

大切なのは、選手が気持ちよく試合に入れる。持ちよく試合に入れる。様々な物や環境に目を向け、できるだけの準備をして工夫を凝らす。8月15日のアウェーの

大切なのは、選手が気持ちよく試合に入れる。持ちよく試合に入れる。様々な物や環境に目を向け、できるだけの準備をして工夫を凝らす。8月15日のアウェーの

臨んでいた。実はリーグ戦で勝利のないスタジアムだったのだ。連取中など、「ここぞ」という時にロッカーの配置やロッカー内のス

ている。ブラジルでプレーして、ホペイロの役割をよく知るカズさんには、スパイクを磨いていると「魂を込めているか」とよく声をかけられた。ホペイロもクラブのために戦うことを学んだ。実際は、ゲン担ぎなど自分ができることはそう多くはないのかもしれない。それでも、勝利に貢献するために何が出来るか。そんなアイテムを日々探している。

アイテム

ゲン担いで気持ち鼓舞

(三浦知良、現横浜FC)がつけていたキャプテンマークだ。「マツ、お前が持っている、引退するときに返してくれ」

手に送り出す。キャプテンマークは前半負けている。後半は取り換えた。勝つのは次の試合も使

新編戦では選手のロッカーの並び順をいつもと逆にしてみた。「あれっ、戦」という選手へのメッセージでもある。一方、

バイクやユニホームの位置を変える。「大事な戦」最近の選手がリラックスできるように、様々な種類のガムやアメも用意している。



ホペイロという仕事

名古屋グランパス 松浦紀典

人から寄せられる。ただし、返答するときほど心も痛い。

「いつかできる日が来るかもしれない。今の仕事もがんばって続けるから、知識を学んでおく

はホペイロの仕事の場がほとんどないからだ。自動車のF1でタイヤ交換や給油をするピットクルーもホペイロと呼ばれる。彼らがいなくて

の意識の差は大きい。僕にはブラジル人のベゼーハさんから受け継いだホペイロとしての財産を自分の代でつぎやうに

な日本人はホペイロに向いている。いつかJリーグ全クラブにホペイロが存在する日が来ることを夢見ている。今できることは、多くの人にホペイロの仕事を知ってもら

必要な存在

いつか「J」全クラブに

「ホペイロになりたいのですが、どうすればいいのでしょうか」
こんなうれしい問い合わせが毎月、自分のブログへのメールや手紙で数

「ホペイロになりたい」といっている。自分と同じ職業に就きたいと言ってくれる人を手放して応援できず、歯切れの悪い答えになってしまふ。なぜなら国内で

様に、サッカーでも試合は成り立たない。欧州や南米ではそう認知されている。Jリーグ15年目の日本と、サッカーが文化として根付いている国と

イロとして勝負したい気持ちもあるが、日本を離れたら誰がその重要性を訴えてくれるのだろうかと考えてしまふ。

ことしかない。サッカー教室や見学会を通じて地道に訴えていく。クラブに貢献する働きをして、日本のサッカー界に認めてもらふための努力は惜しまないつもりだ。

おわり



ホペイロという仕事

名古屋グランパス 松浦紀典

8月12日の広島戦。ハーフタイムにロッカールの片づけを終えてピッチに戻った。GK橋崎正剛がベンチに向かって自分の胸の前で両手をぐるぐる

だめになったな。予備のグローブを持って橋崎の元へ走った。案の定、ボールを外にはじいた際にクロスバーのフックに引っ掛けて右の手のひら

試合前には、選手がレガースを着けているか、貴金属は外したかなどを確かめる。「お弁当を入れたか」「教科書を持っ

イム中は監督の話はほとんど聞かず、選手の水分補給を見る。いつもより補給が少ない選手にはドリンクを届けたり、体調を聞いたりする。

も早く気づくのは母親が多いと思う。クラブでも監督やコーチと別の視点を持つことで見えてくるものがある。そのためにも、選手とのコミュニケーションの時間を増やそうと常に心がけている。

お母さん役

選手の要求感じ取る力

回している。スタッフはテーピングをして欲しいのではないかと話していた。自分だけは橋崎の表情や動きを見た瞬間、「違う」と感じた。

の表面が裂けていた。ホペイロの役割を説明する時、クラブを家庭によくたとえる。選手は「子供」、監督やコーチは「お父さん」、ホペイロは「お母さん」。

声をかける気分だ。試合開始から5分間は選手のプレーを見ながらロッカールームに入る。天候に注意しながらスパイクの選択が合っているかを確認する。ハーフタ

練習中にコーチらに怒られた選手を、練習後になだめることもある。ただ過保護にはせず、選りなど生活態度については

どんなに靴磨きがうまくても、どれほど用具の管理が得意でもホペイロは務まらない。選手の要求を敏感に感じ取ることができて初めて自分の仕事は生きてくる。